

教科	国語	科目	国語表現	開講学期	前期・後期	単位数	2・2	試験	前期・後期
タイプ	Ⅲ	レポート数	6・6	スクーリング必要時数		2・2	スクーリング実施時数		7・7

教科書(発行者)	国語表現(大修館)
補助教材(発行者)	国語表現 学習書(NHK出版)

科目の目標	国語の基礎的な知識を身に付けるとともに、様々な場面に応じた言葉の使い方や、文書の書き方などを学ぶことを通して、自分の考えや気持ちを効果的に伝えるための表現力を高める。		
	1 知識及び技能	2 思考、判断、表現等	3 学びに向かう力、人間性等
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点及びその趣旨	1 知識・技能	2 思考・判断・表現	3 主体的に学習に取り組む態度
	自分の思いや考えを多彩に表現するために、必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 相手の反応に応じて言葉を選び、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫することができる。 自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫できている。 	自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにしようと努めるとともに、相手の同意や共感をめられるよう、表現を工夫することができる。

単位認定	全レポートの合格、スクーリングの必要時数以上の出席及び定期試験合格(30点以上)で単位を認定する。
評価の方法	評価はレポート、スクーリング及び試験により総合的に行う。

学期	レポート	学習内容	スクーリング	試験
前期	第1回	言葉と表記	第1回	前期
	第2回	整った文を書く	第2回	
	第3回	相手に応じた言葉遣い	第3回	
	第4回	わかりやすい文を書く	第4回	
	第5回	文のつなぎ方	第5回	
	第6回	効果的な自己PR	第6・7回	
後期	第7回	感想文と小論文の違い	第8回	後期
	第8回	小論文の構成と型	第9回	
	第9回	小論文を書く	第10回	
	第10回	通信文を書き分ける	第11回	
	第11回	手紙の形式	第12回	
	第12回	相手や場面に応じた会話	第13・14回	